

暗所抗菌性アナターゼ型酸化チタンの解析

廣田 健, Nguyen Phuong Thi Minh ,加藤将樹,田口秀樹 同志社大学理工学部

キーワード:カリウム、リン、アナターゼ、暗所抗菌性、結晶構造

1. 背景と研究目的

酸化チタン TiO₂は、紫外線照射により光触媒反応で活性酸素 ROS を生成し、この ROS が抗菌性を示すことは従来からよく知られている.今回この TiO₂の低温相であるアナターゼ *a*- TiO₂ (Ti⁴⁺のイオン 半径 $r_{(Ti)}$: 0.0605 nm)に少量の K⁺ ($r_{(K)}$: 0.138 nm)や P⁵⁺ ($r_{(P)}$: 0.038 nm)および複合添加(1·K⁺+3·P⁵⁺)/4, r: 0.063 nm, 4+)を添加すると遮光下でも、ROS を大量に生成する.この K と P のアナターゼ中の結晶 構造上の環境を調べ、この抗菌メカニズムを調べる基礎データとする.

2. 実験内容

高純度(99.99%)で微粒子(*P*_s: 34.5 nm)の*a*- TiO₂粉体に KHCO₃や(NH₄)₂HPO₄を添加混合して大気中 700℃で1h熱処理し(この温度の加熱ではアナターゼ相が安定に存在する),内割で5 at% P,5 at% K,ま たは,1·K+*n*·P(*n* = 2,3,4)の比率の混合添加[ここで,K=0.75 at%とすると,Pは1.5,2.25,3.0 at%となる]. それぞれを dope した *a*- TiO₂を調製した.なお,(NH₄)₂HPO₄中のPは蒸気圧が高く,蒸発しやすいので, 熱処理後のPの含有量を,蛍光X線にて測定すると,Pの単独添加では仕込み量に対して残存量は約55%, 1·K+3·P添加では約90%残存する.しかしKについては仕込み量と残存量はほぼ同じであった.

3. 結果および考察

- i) P⁵⁺周辺の局所的化学環境(XANES):Pをdopeした*a*-TiO₂のPのK端XANESスペクトルは単一添加, 複合添加ともよく似ており, P⁵⁺周辺の局所的化学環境はほぼ同じであった(Fig. 1).
- ii) K⁺周辺の局所的化学環境(XANES): Fig. 2 に示すように、K を dope した *a* TiO₂の K の K 端 XANES スペクトルは単一添加, 複合添加では、約 3614 eV 近傍と、3619.2 eV での高エネルギー側のショー ルダーに微妙な差異が認められる.
- iii) 複合添加: *a* TiO₂のPのK端の結晶構造(EXAFS). Fig. 3 に示すように、最初1·K+3·Pを dope した *a*-TiO₂のPのK端のEXAFSから, P-Oイオン間の距離はPO4³におけるP-O間距離1.45~1.50Åよりも短いと考えられたが、EXAFS振動のフーリエ変換で得られる動径構造関数上の結合距離は、位相因子と呼ばれる因子により実際の結合距離よりも0.数Å短くなるので、詳細は不明である.よってPの最近接にはおそらくOが存在してそれ以遠は秩序性がほとんどないと考えられる.

4. 参考文献

1. S. Matsuo, N. Sakaguchi, K. Yamada, T. Matsuo, H. Wakita, "Role in photocatalysis and coodination structure of metal ions adsorbed on titanium dioxide particles: a comparison between lanthanide and iron ions", *Applid Surface Science*, 228 (2004) 233-244.

2. Thi Minh Phuong Nguyen, S. Hirota, Y. Suzuki, M. Kato, K. Hirota, H. Taguchi, H. Yamada, K. Tsukagoshi, "Preparation of ZnO powders with Strong Antibacterial Activity under Dark Conditions", *J. Jpn. Soc. Powder Powder Metall.*, 65 [6](2019)316-324.





The shape of the XANES spectra of the Pdoped TiO2 resemble each other. -> Local chemical environments of P atoms in all the samples resemble each other.

Energy (eV)

Fig. 1 K-edge of XANES of P in a-TiO₂ doped with constant K and various P content; 0.75 at% K + (1.5~3) at% P.

Fig. 2 K-edge of XANES of K in a-TiO₂ doped with constant K and various P content; 0.75 at% K + (1.5~3) at% P.





 Small differences can be seen for the peak at ~3614 eV and the shoulder structure in the higher energy side of the peak.



Fig. 3 K-edge of EXAFS of P in a-TiO₂ doped with $(1 \cdot K + 3 \cdot P)$ [0.75 at% K+2.25 at% P].